

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 26 年 4 月 3 日 (2014.4.3)

【公表番号】特表 2013-502252 (P2013-502252A)
 【公表日】平成 25 年 1 月 24 日 (2013.1.24)
 【年通号数】公開・登録公報 2013-004
 【出願番号】特願 2012-525144 (P2012-525144)
 【国際特許分類】

A 4 7 J 31/44 (2006.01)

A 4 7 J 31/00 (2006.01)

B 6 7 D 1/07 (2006.01)

【F I】

A 4 7 J 31/44 Z

A 4 7 J 31/00

B 6 7 D 1/08 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 2 月 12 日 (2014.2.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 7】

ダクトおよびチャネル 5'、5''、200、抽出ユニット 500、サーモブロック 600、流体コネクタ 700 およびポンプ 800 は、抽出ユニット 500 内に挿入されるカプセル内の挽いたコーヒーや、挿入されたカプセルへ水タンクから流通する水などの飲料成分を処理して、このような成分を混合して出口 510 を介してコーヒーなどの飲料を注出する装置を形成する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 4】

例えば、作動モードにおける 30 分間または 60 分間の動作停止後、装置は、制御ユニット 2 およびユーザセクタ 2b、2b' のみが電力供給されるスタンバイモードに自動的になる。このモードにおいて、ポンプ 800 およびサーモブロック 600 はスイッチオフされ、サーモブロックの冷却が可能となる。飲料ユーザセクタ 2b、2b' の LED は、スタンバイモードにおいて、例えばフェードインおよびフェードアウトなど、交互に明滅し、このモードをユーザに示してもよい。ユーザがユーザセクタ 2b、2b' のいずれかを選択すると、制御ユニットは、始動手順を開始してスタンバイモードを終了する。始動手順の間、飲料の調製に必要なすべての装置部品が再稼働され、特に、サーモブロック 600 が電力供給され、飲料を調製するために流通水を所望の温度まで加熱するのに十分な温度、例えば、コーヒーを調製する場合およそ 90℃ まで予熱される。始動手順の間、飲料ユーザセクタ 2b、2b' の LED は、想定される飲料選択が制御ユニットによって記録されない限り、例えば、高強度や高頻度でまたはスタンバイモードと同じように、交互に明滅してもよい。ユーザが始動モード中にセクタ 2b および 2b' のいずれかを介して特定のタイプの飲料の調製を選択すると、対応するユーザセクタは明滅を持

続し、他方のユーザセクタのＬＥＤは消灯される。装置が始動後に作動モードに入ると、すでに要求した飲料に対応する飲料調製プロセスが、ポンプ８００の稼働によって自動的に開始される。よって、ユーザは、対応するユーザセクタを選択することによって、飲料を要求するために始動モードの終了を待機する必要がない。